

## 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に関連した皮膚科手術について

本内容は、日本皮膚科学会が推奨するものではあるが、現状においての内容であり、状況により、適宜アップデートします。また、各施設での対応を制限するものではなく、関係各所と連携の上、判断の一助としてご使用ください。

また、エビデンスに基づいたものではございませんので、ご了承ください。

現在、外科手術は大きく2つの点で実施の可否を検討する必要がある。

### 1. [感染対策]

COVID-19 感染症の蔓延に伴い、手術することによる患者ならびに医療従事者のリスク：潜在的な COVID-19 感染者がいる。皮膚科が行う局所麻酔による手術は、顔などの手術を除けばほぼ日常診療と同等のリスクで、通常のマスク、フェースシールドないしゴーグル、手袋による防護で実施可能。しかし、全身麻酔の場合には、術者以外に麻酔科医、看護師等の医療従事者のリスクも考慮する必要が生じる。全身麻酔では通常気管内挿管が行われるが、特に麻酔科医にとっては術者以上に高リスクとなる。

### 2. [医療資源]

各病院ごとの COVID-19 感染用の PPE (個人防護具) や通常の手術時に着用するガウン、フェースシールド、マスクの備蓄状況：病院ごとに PPE や一般手術着の備蓄、今後の供給見通しに差があり、これにより実施可能な手術が病院ごとに異なってくる。またその際に、PPE を節約する意味でも術者の人数は可能な限り減らす努力行う必要がある。通常のサージカルマスク、滅菌ガーゼ等も施設により差があるが、供給が滞っていることがある。また、特に外来手術の場合は、術後に患者がガーゼ等の衛生材料を用いて術創のケアをおこなうが、市中での衛生材料の供給が滞っている。

一般的には、手術のトリアージに関しては外科学会が目安として示しているセントルイス大学の Elective Surgery Acuity Scale をベースにした手術トリアージが参考になる。

日本外科学会 HP：<https://www.jssoc.or.jp/aboutus/coronavirus/info20200402.html>

## 皮膚科手術

- ・皮膚科手術においては、下記表の段階3以外に関しましては、実施せず、延期の対応を検討する。

段階	定義	手術の例	対応
1	致命的疾患でない、急を要しない外来手術など	色素性母斑、粉瘤、脂肪腫等ほとんどの良性腫瘍	延期
2	致命的疾患でないが潜在的には生命を脅かす、または重症化する危険性あり、入院を要する疾患	悪性腫瘍（日光角化症、ボーエン病、基底細胞癌（表在型））	可能であれば延期
3	数日から数ヶ月以内に手術しないと致命的となりうる疾患	悪性腫瘍（上記以外のもの）、良性疾患であるが出血がとまらない場合、重症感染症（壊死性筋膜炎、ガス壊疽など）、重症熱傷	新型コロナウイルス（COVID-19）感染症予防策を十分に行った上で、慎重に実施

- ・頭頸部の手術は可能な限り中止または延期とする。（日本形成外科学会推奨）。
- ・手術に対応する人数は必要最低限とする。
- ・手術の対象であっても、患者さん本人又は同居ご家族に発熱が見られた場合は延期する可能性があることを事前にお知らせする。
- ・COVID-19 感染症予防対策のひとつとして、患者が本人用のマスクを持っていれば、手術室に入退室する際には患者自身にもマスクを装着した状態で移動をお願いする。患者の状態が安定していれば、酸素投与はマスクの上からで問題ないが、あくまで状況に応じて柔軟にご対応する。
- ・問診を実施してください。

## 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に関する問診票

入院時または手術前の患者さま、付添いや面会の方々へお伺いいたします。

当院では、患者様ならびに医療従事者の感染を防ぐ目的で、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に対して厳重に対応しております。その一貫として、入院時または手術前の患者様、付き添いや面会の方々の新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に関する問診を実施いたしております。

どうぞご協力をお願いいたします。

令和年月日

氏名： \_\_\_\_\_ 才 \_\_\_\_\_ (ID： \_\_\_\_\_)

### A

当てはまるものにチェックをしてください

質問		
① 新型コロナウイルス（COVID-19）感染者の方と一緒にいたことがありますか？	はい	いいえ
② 2週間以内に、海外にいきましたか？	はい	いいえ
③ 2週間以内に、「海外や他都道府県に行ったあと、発熱と咳がでてきた人」と、一緒にいたことがありますか？	はい	いいえ
④ 2週間以内に50名以上が集まるイベントに参加しましたか？	はい	いいえ
⑤ 2週間以内に、県外に行きましたか？	はい	いいえ
	地名（ _____ ）	
⑥ 2週間以内に県内・外によらず、いわゆる”3密“（換気の悪い密閉空間、多くの人の密集する場所、近距離での密接な会話）の機会はありましたか？ 例：自自宅以外での複数人での飲食、集会参加、集合しての運動、カラオケ、ライブ参加、パチンコ、マスクなしでの満員電車、満員のバスへの乗車など		

### B

当てはまる症状がありますか？（ある：○、ない：×をつけてください）

① 発熱（ $\geq 37.5^{\circ}\text{C}$ ）		⑦ 強いだるさ（倦怠感）	
② のどの痛み		⑧ 臭いがわかりにくい	
③ 鼻水		⑨ 味がわかりにくい	
④ せき		⑩ 吐き気・嘔吐	
⑤ 痰（たん）		⑪ 下痢	
⑥ 息苦しさ			

# 結果の見方

## Aについて

- ①～④該当する場合→手術できない
- ⑤の回答が、下表の流行地域に該当する場合は、手術の延期を考慮する。
  - ⑤あり、⑥なし、などで、リスクがないと判断できる場合は感染管理室に問い合わせる。
- 県内・外を問わず、⑥に該当する場合は、手術できない。

⑤国内の流行状況				
北海道	東京	神奈川	埼玉	千葉
愛知	大阪	京都	兵庫	福岡
茨城	福井	岐阜	石川	その他適宜追加

- 付添いや面会者が該当する場合、すぐに帰宅していただく
- 2週間の自宅安静ができなかった人は、2週間の自宅安静のちに入院させる。または、入院後2週間、個室管理で体調に変化がないことを確認したのちに、手術を行う

## Bについて

- **入院時の場合**
  - ✓ ①と⑥の両方→感染管理室に連絡。PCR検査を考慮する。
  - ✓ ①と④の両方→飛沫予防策を開始。
  - ✓ ①に加えて、②～⑨（④⑥除く）の1つ以上がある→飛沫予防策を開始。必要に応じて原疾患および疑われる感染症の一般的な治療を開始し、症状の経過をみる。悪化する場合、感染管理室に相談する。
- **手術前の場合**
  - ✓ ①と⑥の両方→感染管理室に連絡。PCR検査を考慮する。
  - ✓ 入院後14日以内に、あらたに①～⑨の症状が出現した場合→飛沫予防策を開始。手術の延期を考慮。必要に応じて原疾患および疑われる感染症の一般的な治療を開始し、症状の経過をみる。悪化する場合は、感染管理室に相談する。
  - ✓ 手術延期できない場合→N95マスク、アイシールドなどを着用し、陰圧手術室で行う。
- **付添いや面会者の場合**
  - ✓ ①～⑪の1つでも該当する場合は、帰宅していただく
  - ✓ 病状説明など、短時間のみの来院であり、やむを得ない場合は、特別な部屋を用意する。（感染管理室に連絡する）

- ・個人防護具（PPE）については、施設の基準に従ってください。

なお、PPEの着脱時においては十分注意を払うこと。特に脱衣時において、手術者本人及び周囲のスタッフへの暴露するリスクが高いため、できる限り事前に着脱がスムーズにできるよう習得しておくことが望ましい。

- ・標準的なPPE着脱方法については以下のサイト（一般社団法人職業感染制御研究会HPより引用：<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-putonoff.html>）で詳しく紹介されており、参照のこと。

➤サージカルマスク：<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-surgicalmask.html>

➤N95マスク：<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-n95mask.html>

➤ゴーグル・フェイスシールド：

<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-goggles.html>

➤ガウン・エプロン：<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-gown.html>

➤手袋：<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-glove.html>

➤電動ファン付呼吸用保護具（PAPR）：

<https://www.safety.jrgoicp.org/ppe-3-usage-papr.html>